

研究開発ニーズについて

機関名	課題名	背景・問題点等	重点を置くべき研究内容	協議してもらいたい推進会議・部会名	想定される連携先	対応方針
宮城県水産技術総合センター	200トンクラスの調査船の表中層トロール網調査によるサンマ漁獲効率推定	北海道・東北ブロックのエリアにおいて、サンマは生鮮および加工向けの原料として極めて重要であり、被災地の復興を推進する魚種として期待されている。そのサンマの資源調査・漁況予測の調査手法は、東北水研を中心に表中層トロール網による調査が行われている。今まで宮城県では新宮城丸で棒受網を用いた漁場分布調査を実施してきたが、200トンクラスの調査船の建造に伴い、サンマ調査を表中層トロール網による調査に移行することを検討している。しかし、200トンクラスの調査船による実績や漁獲効率についての信頼できる情報がない。	大型船(499トン)での漁獲効率は東北水研によって研究報告されている。また、東北水研では資源評価に表中層トロールを用いており、これと比較できるような共同実験・調査を行い船型、網規模などを定数化した漁獲効率モデルの研究をすることが必要と考える。なお、釧路水試に於いても新造する調査船(250tクラス)でサンマ調査は表中層トロールを用いることを検討しているとのことであり、共同して研究することが望ましいと考える。200トンクラスの調査船による調査の有効性が確認されれば、サンマの資源水準をより明確に知ることができ、結果として漁況予測等の精度向上につながる。	関係ブロック推進会議	釧路水試、北水研、東北水研、中央水研、水工研	宮城県、釧路水試の新造船はともに26年度竣工予定である。26年度に漁獲効率推定試験が実施できることを目指す。それまで、試験実施に向けて、外部資金の獲得、事業費が利用できるような調査計画などを、関係機関で検討を進めることとする。
釧路水産試験場	小型調査船によるサンマ中層トロール網の漁獲効率推定	道東太平洋海域においてサンマ漁況予測の精度向上が求められていることから、北海道(道総研)では北辰丸(釧路水試所属)の更新に伴い、サンマ漁獲試験を中層トロール網に移行することを検討している。しかし、200~250トンクラスの小型調査船による実績や漁獲効率についての信頼できる情報がない。	大型船(499トン)での漁獲効率は東北水研によって研究報告されている。また、東北水研では資源評価に中層トロールを用いており、これと比較できるような共同実験・調査を行い船型、網規模などを定数化した漁獲効率モデルを求める。なお、宮城県に於いても新造する調査船でのサンマ調査は中層トロールを用いることを検討しているとのことであり、共同して研究することが望ましいと考える。	東北ブロック推進会議調査研究部会	宮城県、北海道区水研、東北区水研、水工研	